

項目		説明
試料・情報の利用目的及び利用方法	研究課題名	遠位胆管癌切除例における Lymph node ratio の予後因子としての有用性
	研究目的	遠位胆管癌における予後予測因子は腫瘍進展範囲や微小浸潤、リンパ節転移などが報告されている。特にリンパ節転移は最も有用な予後予測因子の一つである。近年、様々な悪性腫瘍患者において転移リンパ節頻度が高いほど予後不良であるとする報告が散見される。今回我々は根治手術を行った遠位胆管癌患者における LNR の予後予測因子としての有用性を検討する。
	研究対象者	2012 年 1 月から 2021 年 12 月まで当院で根治手術を行った遠位胆管癌患者 56 例を対象とする。
	研究期間	西暦 2023 年 4 月 24 日～西暦 2023 年 12 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の管理についての責任者	当センター研究責任者	村川正明
試料・情報を利用する者の範囲	当センターでの実施診療科/部局等	消化器外科(肝胆膵)
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし
試料・情報の利用停止および情報公開に関する窓口		消化器外科(肝胆膵) 村川正明